

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	令和元年度 河内長野市学校運営協議会連絡会議
2 開催日時	令和2年2月20日(木) 午後6時00分から
3 開催場所	市役所 別館2階 組合会議室
4 会議の概要	1. 開 会 2. 教育長挨拶 3. 委嘱状交付 4. 会長・副会長互選 5. 各学校運営協議会委員からの意見収集 6. 閉 会
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	0人
7 問い合わせ先	(担当課名) 教育推進部 教育指導課 (内線 730)
8 その他	

*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

令和2年2月21日（金）

18:00～19:50

別館2階 組合合会議室

1. 教育長より

- ・5月全体研修会では、新学習指導要領改訂の背景と学校運営協議会の設置の目的を確認し、委員に国の動向と市の施策について知っていただいた。
- ・当初より、学校運営協議会の協議の仕方を示している。
- ・今年度の連絡会議では、学校運営協議会の会議の様子を中心に聞かせていただきたい。
- ・会議の内容を聞いて、我々教育委員会が要項を変えるようなヒントがあれば参考にさせていただく。

2. 会長・副会長互選

- ・宮阪部長から、杉本様をご推薦いただいたのですが、ご了承いただける場合は、拍手をお願いします。
- ・会長から森本校長をご推薦いただいたのですが、皆様ご了承いただける場合は、拍手をお願いします。
- ・それでは、杉本会長、森本副会長、よろしくお願いいたします。

3. 新学習指導要領改訂の背景について（事務局より）

- ・子ども達が「何ができるようになるか」が大切になり、また子ども達が「何が身に付いたか」を実感することができる教育を進めていくことになる。
- ・その実現のためには「社会に開かれた教育課程」として地域のみなさんの力を貸して頂きながら、教育を進めていくように示されています。
- ・そこで、1つ目として、各学校の学校運営協議会で課題の共有や、どのような話し合いが行われたのか、といった学校運営協議会の会議の在り方について意見交換していただく。
- ・2点目として、中学校での学校運営協議会の設置に向けて、ご意見を伺いたい。

4. 社会に開かれた教育課程について（杉本会長より）

- ・課題を見つけ考えていく力をつけるためには、地域に学校が開かれていないといけない。
- ・地域の課題に子ども達が疑問を持ち、課題を見つけ考えることが大切である。

5. 小学校での学校運営協議会での課題共有や協議の仕方について

（杉本会長より）

- ・各校での学校運営協議会が形骸化していくと課題が見えなくなったり目的が見えなくなり、活動ばかりが見えてきてしまう。
- ・実態をそのままご紹介していただき、学校運営協議会の課題を共有できたらと思う。

（各委員より）

- ・最近、何のためにやるのかや我々を学校の先生方はどう評価しているのかを協議している。
- ・まず人を増やすことが大事にしている。
- ・子どものためになっているのか、と教員が言ってきた。今は、キャリア教育として地域の方に来ていただいて授業をやったり合同会議をしている。
- ・地域で子ども達に何をやらしたらいいのかなと考えることで子どもが変わった。地域で子ども達を育てるという意識が大切だが、マンネリ化してくる。課題は、地域の人や若い人がいかに関わってくれるか。
- ・地域目線ですずっと子ども達を支えたいという目的を持っているが、会議はマンネリ化している。会長をやっていて、変わることが大事だなと悩んでいる。
- ・取組みの継続はいいが、マンネリ化してきている。今年はPTAが委員からはずれたので、なるべく委員にいらしてほしい。
- ・先生と信頼関係を結び、子どもを中心に、地域の方々の意見を聞いている。
- ・CSの活動自体がCSの自己満足ではなく、子ども達や保護者がどう考えているのかが必要なことと感じている。
- ・子どもの数が減ってきている中で、学校の課題として最初に教育計画を見て課題を話し合っている。地域支援本部で地域にアンケートを取って、どんなことが得意かをデータにしている。

- ・子どもの人数がどんどん減ってきているが、学校運営協議会の取組みの参加は多い。小中で一体となったことを見据えて先生方もやってくれている。学校運営協議会として先生方と一緒に進めていければいい。
- ・いろいろな行事をやっている。今年度は学力向上を中心に取り組んだ。放課後学習教室に取り組んでいく中で、最終的に、学校長や学校はどのようにしたらやりやすいのかを考えた。
- ・取組みは、おにちゃんやおねえちゃんもやってきたので、子ども達は楽しみにしてくれている。子ども達にいかに分かりやすく伝えるかが大事と感じている。

(杉本会長より)

- ・子ども達の何が育ったのかが大事。ただ、子どもが喜ぶことではなく、議論するのは子ども達の何が育ったのかということ
- ・地域に関わるということは、学校ではできないことをするという。みなさんがやっている事柄を通して、子ども達が何を学ぶのかが大事。
- ・少子化の問題については、数で物事を判断せず、参加者が少なければ、それだけ満足度が上がると考える。デメリットをメリットに変える。そういう前提で議論を進めていってほしい。
- ・後継者が足りない。マンネリ化する、地域の人が関わってもらえないということについては、いま、クラウドファンディングということが広がっており、目的がはっきりしていれば人が集まる。なぜ、われわれがこのような活動をしているのかを説明し知ってもらうことが大事。

6. 中学校の学校運営協議会設置について

(委員より)

- ・賛成。小学校ごとが一緒になって、それをどう中学校につなげていくか。CSのメンバーも中学校に入って議論を進めて行ったらいい。
- ・賛成。中学校は小学校よりも見えにくい部分があるので小中一貫という考えでいければいい。
- ・小中一貫はこれからも進んでいく。今年から中学校の校長先生やPTA会長も委員ではなくてオブザーバーとして参加している。中学校の先生も何をやっているのかが分かって良い。

(杉本会長)

- ・設置の方向で進むということによろしいですね。
- ・これからは、中学校を真剣に考えないといけないし、何十年も前の中学校と今の現場の中学校とほとんど変わっていない。中学校の改革が遅れている。だから、地域が入ることで活性化する。世界は中学校を大切にしている。どんな社会の役に立つのかということをも中学校の時にきちんとおさえておく。だから、社会で働いてきたみなさんが大事になってくる。

7. 学校と地域の双方向性

(杉本会長)

- ・コミュニティスクールは子ども達を支えるだけでなく、実は地域を支えている。
- ・高校や大学では、生徒の考え方を聞いて地域を活性化するという例もある。
- ・学校に学ぶのではなくて、地域が学校に学ぶという時代。ふるさとを良くするという力をつけるのがふるさと学習。これからはこういう学習が出てくる。これが社会に開かれた教育課程の狙い。

(森本副会長)

- ・今の子ども達は非常に自尊感情が低い。その解消には、だれかに貢献することが大事。学校運営協議会のみなさんにやってもらっていることが多いが、自分たちが考えていることが役に立っているということが大事だと感じる。

(杉本会長)

- ・社会の中であなたは求められている、必要なんだと覚えることが大事。これからは、参加ではなく、参画。参画は企画から加わるということ。一緒に考えて、認められている子ども達が育てばいい。

8. その他 (教育指導課長より)

- ・「PTA」の委員加入の件についてですが、学校現場やみなさんの意見を受けて、委員も加入することにする。
- ・次に「報酬費」について、会議が活性化し、委員の方々が様々な形で学校に参入していただいている状況もあり、日額から年額へ変更する。金額については、全国で公開されている学校運営協議会の報酬費を調査し比較検討した結果、年額12000円が妥当と考えられ、本市においても同様の金額で進める。